

別秘広第4-0775号

平成31年 2月22日

別府市議会議長 黒木 愛一郎 様

別府市長 長野 恭紘



平成30年 市民と議会との対話集会における要望について（回答）

平成30年11月9日付、別議第1-0114号にて要望のありました標記の件について、下記のとおり回答いたします。

記

1 別府市消防団

近年の社会構造の変化は消防団員の確保と活動に大きな影響を及ぼしており、喫緊の課題となっている。入団しやすく、活動しやすい消防団となるよう早急な環境整備を要望する。

（回答）

近年、災害が多様化・大規模化し、様々な期待が消防団に求められている中、高齢化やサラリーマン団員の増加などにより、全国的に消防団員数は、年々減少傾向にあります。

本市の過去5年間の消防団員数は多少の増減はあるものの、ほぼ横ばいの状態が続いています。

入団促進の取り組みとしては、平成3年から別府市消防団員募集推進委員会を年4回開催し、消防団員の募集活動を実施しています。

また市報に消防団員募集の記事を定期的に掲載するとともに、消防団の活動について知っていただくため、ホームページに活動状況等を公開し、適宜更新しています。

その他、市民と消防のつどい、救急フォーラム、出初式等で消防団員に活動していただき、消防団活動への理解と協力及び消防団への入団の呼びかけを行っています。

新たな取り組みとして、昨年、大分県が将来的な若年層の消防団員確保の対策として、市町村の推薦を受けた消防職員と消防団員の計18名を「地域消防アドバイザー」として認定しましたが、本市では消防団の分団長1名が認定され、本年度はこ

の地域消防アドバイザーを活用し、消防思想の普及、地域防災力の底上げを目的に、小学生の高学年を対象に体験型訓練の実施を計画しています。

さらに、消防団活動の情報発信力を高めると共に、大学生を対象に、避難誘導や避難所などを支援する一般的な消防団員とは異なる特定の活動・役割で参加する機能別消防団員（大学生防災サポーター）の導入、また、昼間の消防力確保対策といたしまして、消防団OBの採用についても調査・研究してまいりたいと考えています

2 立命館アジア太平洋大学

立命館アジア太平洋大学へは交通等の利便性が悪く、バスの運賃も高い。増便や運賃の見直しなどについて、バス事業者等との検討を要望する。

(回答)

立命館アジア太平洋大学へのバス運行（APU線）につきましては、バス事業者が大学との連携により、運行時間や運行台数などの調整を図っており、また、割引のある定期券や回数券などについても、両者で協議を行っていると考えております。

また、APU線につきましては、以前から大学や学生から運行時間等について要望が寄せられており、その都度、当該交通事業者と協議をしておりますので、本件要望につきましてもバス事業者と協議いたします。

今後も、利用者ニーズを把握しながら、市民の利便性の向上のため、地域の実情に応じた適切な公共交通の態様に努めてまいります。

3 社会福祉法人 太陽の家

障がい者に適した環境整備や交通の利便性向上を図るため、バリアフリー住宅の建設推進と、低床バスやリフト付バス等の増便についてバス事業者等との検討を要望する。

(回答)

バリアフリー住宅の建設については、『別府市公営住宅等長寿命化計画』に基づき、亀川地区にある亀川住宅、内竈住宅、浜田住宅の集約建替を平成30年度（2019年1月）より実施しています。

この事業は、車いす対応住宅を24戸、屋根付駐車場24区画を整備し、車いす対応エレベーターを設置するなど施設全体にユニバーサルデザインの考え方を導入して、高齢者、障がい者、子育て世代等を含む全ての人が安全に安心して生活できる環境を目指すもので、2021年中に完成し、翌年に供用開始する予定です。

また、低床バスやリフト付バス等の増便について、バス事業者は老朽車両の買い替えのタイミングで増便を行なっていると聞いています。

ノンステップバスやワンステップバスなどの車両購入費用は高額で、事業者負担が大きいため、交通事業者と国庫補助制度や他の助成制度の活用などを検討し、協議しながら進めていきたいと考えています。

少子高齢化社会が進展する中で、だれもが安心して生活できる環境の整備が必要だと考えておりますので、住民の生活に必要なバス等の確保や利便性の向上、地域の実情に即した公共交通の実現に努めてまいります。